



1 気象概況（9月後半：果樹研究所）
 平均気温は、平年と比較すると4半旬が20.5℃で0.2℃低く、5半旬が19.8℃で0.8℃高く、6半旬が17.1℃で1.0℃低く経過しました。
 この期間の降水量は82.5mmで平年の105%でした。

2 生育状況（10月1日時点：果樹研究所）

(1) りんご

ア 果実肥大状況

りんご「ふじ」の果実肥大は、暦日比較では縦径が101%、横径が104%と平年並で、満開後日数による比較でも平年並でした。

イ 「ふじ」の果実成熟状況

9月27日（満開後158日）の「ふじ」の成熟は、硬度は15.7ポンド、デンプン指数^{*}は3.1でほぼ平年並、また果皮に含まれるクロロフィル含量、アントシアニン含量とも平年並に推移しています。

※りんごのデンプン指数：指数1～5で評価し、数値が高いほどデンプンの消失が進んでいます。

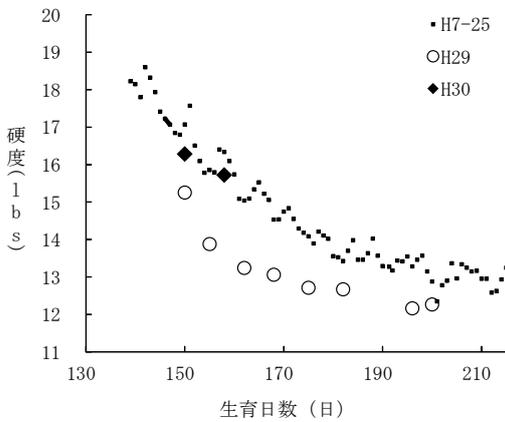


図1 「ふじ」の果肉硬度の推移

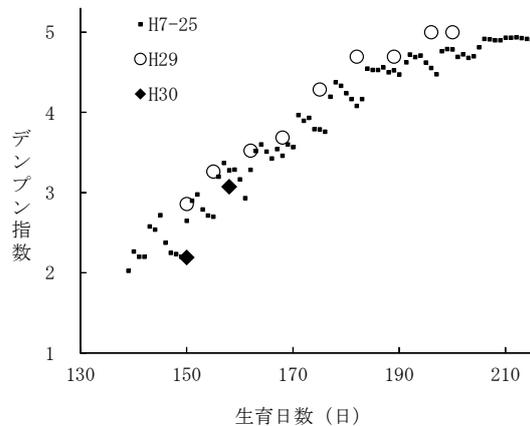


図2 「ふじ」のデンプン指数の推移

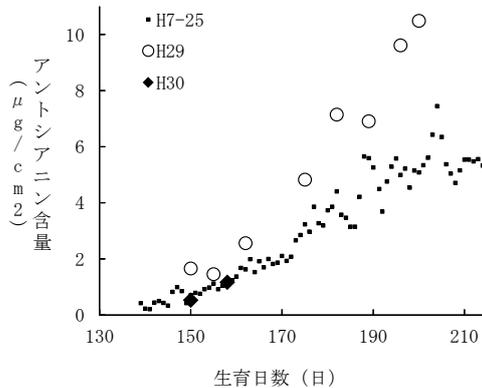


図3 「ふじ」のアントシアニン含量の推移

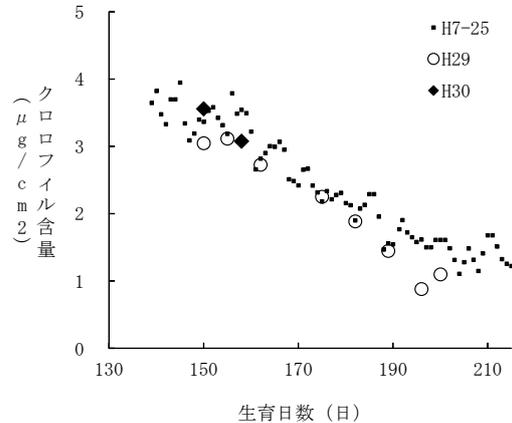


図4 「ふじ」のクロロフィル含量の推移

(2) な し

ア 「ラ・フランス」の収穫期と果実品質

「ラ・フランス」の収穫盛期は、平年に比べ10日早まりました。収穫時の平均果重は平年よりやや小さく、糖度は平年並でした。

また、成熟調査では、果肉硬度は平年並、地色指数は平年よりやや高く、デンプン指数は平年より高く推移しました。夏期以降の気候条件が高温・多日照の年は、デンプンの消失が遅くなる傾向となるため、今年の収穫は、収穫適期基準(表3)のデンプン指数を除く項目を重視して行いました。

表1 ナシ主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/20	8/25	8/25	8/23	8/31	8/30	8/27	9/6	9/4	365	380	380	12.7	12.6	11.0
豊水	9/4	9/13	9/11	9/8	9/19	9/16	9/18	9/25	9/25	307	429	404	14.4	12.8	11.6
二十世紀	9/11	9/18	9/14	9/13	9/22	9/17	9/18	9/27	9/21	424	401	428	11.6	11.2	10.3
ラ・フランス	9/27	10/6	10/3	9/27	10/7	10/3	9/27	10/9	10/3	275	294	291	12.9	12.9	13.3

注) 平年値は、1986～2015年(ラ・フランスは1987～2015年)の平均。

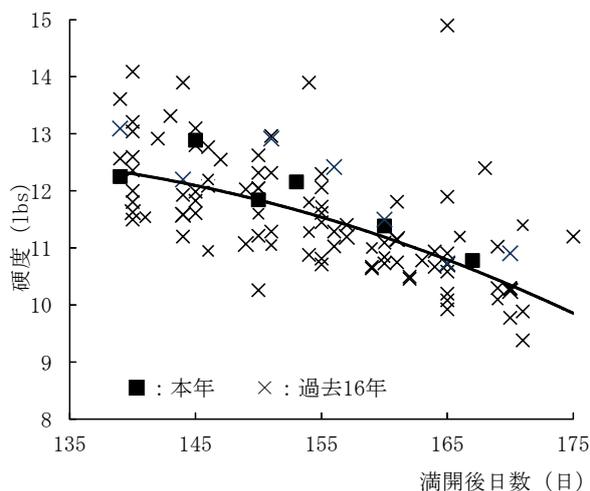


図5 「ラ・フランス」の果肉硬度の推移

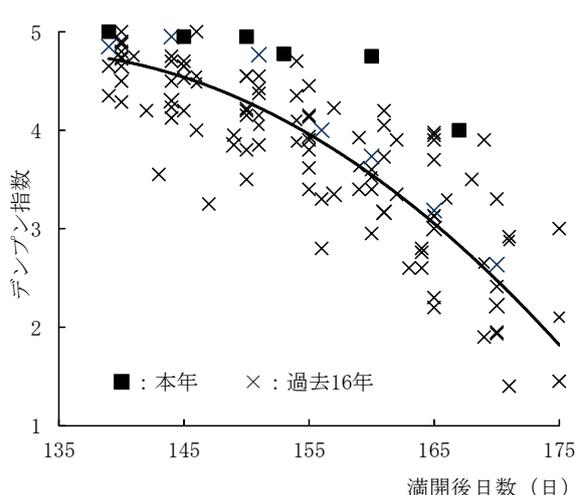


図6 「ラ・フランス」のデンプン指数の推移

(3) ぶどう

ア 「シャインマスカット」の成熟状況と果実品質

9月26日の収穫果の果実品質は、果房重が537.5g、1粒重が13.9g、糖度が17.7° Brix、酒石酸含量が0.28g/100ml、糖酸比が63.5でした。

表2 「シャインマスカット」の成熟状況と果実品質

品種	調査日	満開後 日数	果房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	糖酸比
シャイン マスカット	8/23	77	489.0	11.4	15.9	0.52	30.2
	8/30	84	499.1	12.4	15.6	0.44	35.2
	9/6	91	492.3	13.1	16.0	0.37	42.9
	9/18 (収穫始)	103	517.9	13.4	17.0	0.29	59.4
	9/26	111	537.5	13.9	17.7	0.28	63.5

※ 収穫果(9月26日)の果実品質の値は本年度の確定値ではない。

3 栽培上の留意点

(1) なし

果樹研究所の「ラ・フランス」のデンプン指数*は平年よりも高めに推移していますが、収穫が遅れると内部褐変や果肉の粉質化が起こりやすくなるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

表3 「ラ・フランス」収穫適期の新たな基準

	生育日数 (日)	地色 指数	硬度 (lbs.)	デンプン 指数
新たな基準	160～165	3.0	11	3.0～3.5

注)平成28年度農業総合センター普及成果情報

(2) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

1回目の葉摘みは、果実に接している葉を中心に数枚程度実施し、併せて玉回しを行い、10月中旬以降の2回目の葉摘みでは、個々の果実に光が当たるように丁寧に実施しましょう。

反射シートの敷設は、遅れないように実施し、枝の下垂が目立つ骨格枝等には枝吊りや支柱立てを実施しましょう。

イ 中生種の収穫

地色、着色、デンプンの抜け、果実の肉質、食味等から総合的に判断し、品種特性に応じて収穫適期の品種から収穫しましょう。なお、わい性台樹の生育は、マルバ台樹よりも早い傾向があるため、収穫が遅れないよう注意しましょう。

(3) ぶどう

ア 冬肥

県施肥基準に従い、冬肥の施用は、落葉期の11～12月に行いましょう。ただし、秋肥(9月)の施用が未実施の場合は、早急に実施しましょう。「巨峰」成木における年間施肥量の目安(10a当り分量)は、窒素6kg、リン酸8kg、加里8kgであり、窒素は秋肥、冬肥、春肥で各2kgずつ施用します。ただし、樹勢が強い場合は窒素の施用量を減らしましょう。

なお、堆肥等は冬肥時に併せて施用し、その分量を考慮して冬肥施肥量を調整します。

イ 間伐・縮伐

樹冠が拡大し枝が混み合ってきた場合、早めの間伐や縮伐を実施しましょう。間伐や縮伐は収穫終了直後に行うと良いでしょう。この時期はまだ葉があるため、枝の混み具合がわかり、残った枝に良く光が当たるようになり、養分蓄積にも有効です。

4 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア モモせん孔細菌病

9月以降の降雨により感染の拡大が懸念される状況にあるため、秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。薬剤は4-12式ボルドー液またはI Cボルドー412(30倍)、クレフノン(100倍)加用コサイド3000(2,000倍)またはクレフノン(100倍)加用ムッシュボルドーDF(500倍)のいずれかを選択し、2週間間隔で3回、十分量を散布し

ましよう。

イ ナシ黒星病

冷涼多雨な気象条件では翌年の伝染源となる芽への感染が増加するため、2回目の秋期防除を実施していない園では速やかに防除を行いましよう。薬剤は、オーソサイド水和剤 80 (600倍)またはベルコート水和剤 (1,000倍)を選択し、枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましよう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましよう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>